

24時間365日、患者さまを受け入れてくれる 山口病院の存在はとても貴重です。

—山口病院との連携はいつ頃からですか？

父が『かがみ外科』を開業したのが昭和43年。有床診療所として救急患者も受け入れていました。その頃から、山口病院さんとの連携が始まりました。12年前、医院のリニューアルを機に、MRIやCTによる検査だけでなく、入院が必要な患者さまをお願いするなど、いっそう連携が深くなりましたね。

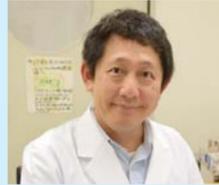
—以前に、山口病院に勤務されていたそうですね。

そうですね。私が当院の院長に就任する前、常勤医師としてお世話になりました。理事長を始め、患者さま中心の医療を徹底されていて、非常に勉強になりました。当院では整形外科・外科に加え、内科、皮膚科、脳神経外科の専門外来を設け「誠実な医療」をモットーに、日々業務にあたっています。

—地域医療についてメッセージをお願いします。

24時間365日、どんなときも患者さまを受け入れてくれる山口病院の存在はとても貴重です。これからも今まで以上に、連携を強くしながら、地域医療に貢献していきたいと思います。

(院長 鏡味 毅 先生)



中部労災病院整形外科、蒲郡市民病院整形外科、山口病院などを経て、平成14年2代目院長に。日本整形外科学会認定整形外科専門医、同認定リウマチ医、同認定運動器リハビリテーション医。

今号の表紙

場所：常滑やきもの散歩道／愛知県常滑市

日本六古窯のひとつ(常滑窯)として知られる常滑焼。その歴史にふれつつ、迷路のような路地の散策が楽しめます。恒例の「常滑焼まつり」は8月23日(土)・24日(日)に開催予定。



医療法人 かがみ整形外科・外科 名古屋市天白区井の森町201
TEL.052-895-8175



診療科目:整形外科・外科、リハビリテーション科、胃腸科、皮膚科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科

理念 家族を想う気持ちを大切にしたい

基本方針

1. 患者さま本位の医療

…患者さまに対して家族や大切な人を想う気持ちを持って接するよう心がけます。

2. 地域への貢献

…24時間体制で地域住民に対して安心できる医療を提供できるよう努力します。

3. 向上心と信頼関係

…私たち職員は、常に向上心を持ち、お互いに尊敬し、信頼できる関係でありたいと思います。

■ 診療科目

一般診療 整形外科、内科、外科、消化器科、脳神経外科、リウマチ科、リハビリテーション科、皮膚泌尿器科、肛門科、放射線科、麻酔科

特殊診療 CPAP(睡眠時無呼吸症候群治療)、AGA(男性型脱毛症)在宅酸素療法、禁煙治療、ED(勃起障害治療)

※訪問診療 病状などにより、通院が困難な方のお家をお訪ねします。

■ 病床数 60床(うち急性期病床 10床)

■ 診療日

	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	●	●	●	●	●	●
午後 4:00~ 6:00	●	●	●	●	●	×

休診日/日曜日・祝日・土曜日午後
※救急・ケガ等の場合はいつでも診療いたします(24時間体制)

医療法人 山和会 山口病院

〒457-0836 名古屋市南区加福本通3-28

TEL 052-611-6561(代) FAX 052-613-0333

名鉄：「大江駅」下車、南へ150m
市バス：新瑞橋13系統(左回り)/新瑞橋14系統「港東通」下車 神宮15系統「大江駅前」下車

日本医療機能評価機構認定病院

当院では、医療の質向上の取り組みとして、財団法人日本医療機能評価機構による審査を受け、平成22年4月2日付で認定されました。



<http://www.yamaguchi-hp.jp>

ケータイ・スマートフォン
サイトもご覧ください



やまぐち

患者さまと病院をつなぐ広報誌

2014 Summer

健康シリーズ

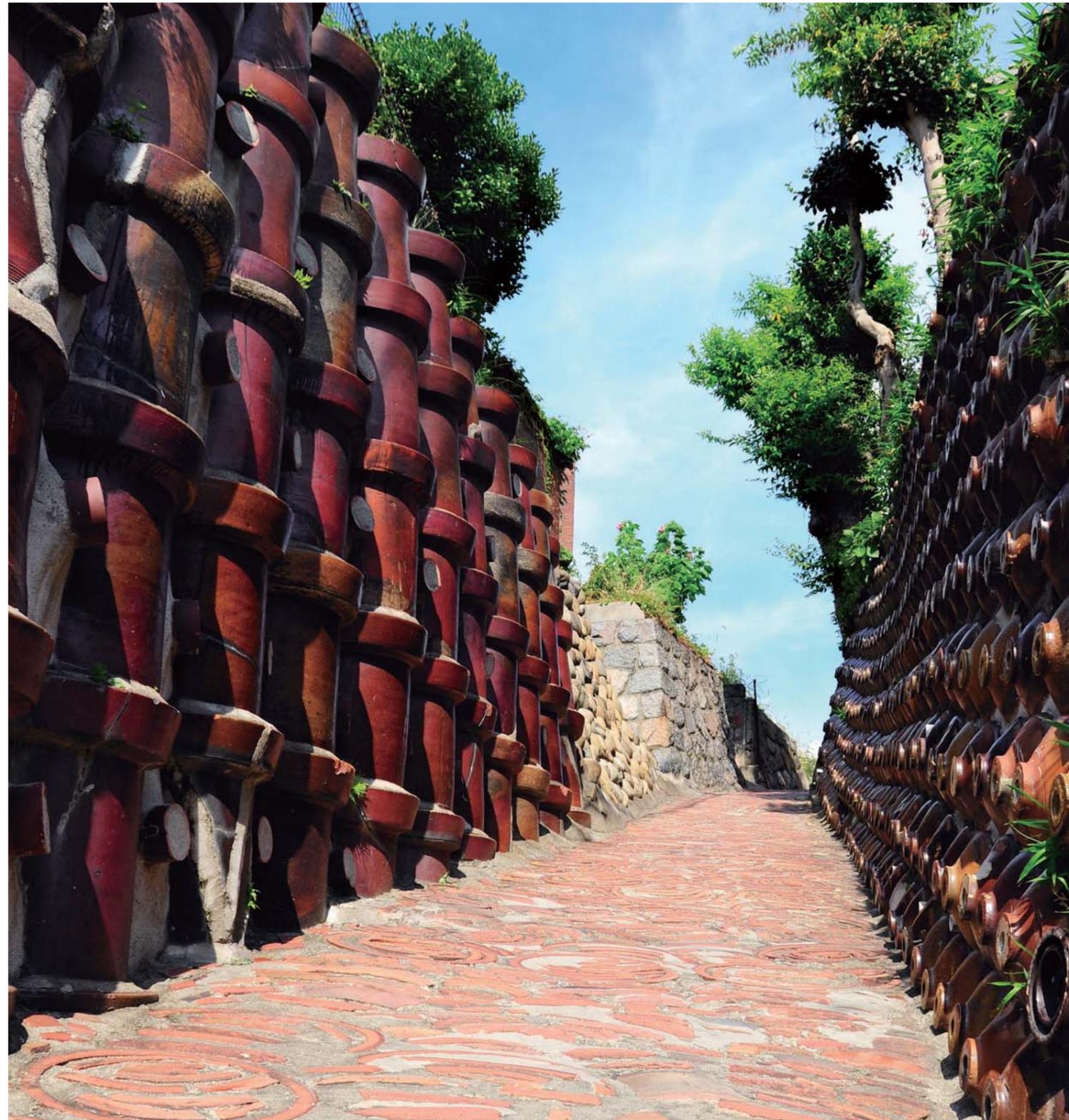
「五十肩」

50歳代で発症するとは限らない、
身近な五十肩

●二次救急指定病院として

●地域医療にクローズアップ

【医療法人 かがみ整形外科・外科】



50歳代で発症するとは限らない、身近な五十肩



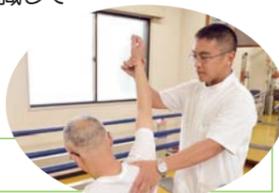
急性期は安静時でも痛み 夜間痛も見られる

五十肩とは、肩関節の周囲に炎症が起こって痛みや運動障害をきたす病気のこと、正式には「肩関節周囲炎」といいます。50歳代で多く発生することから「五十肩」と呼ばれますが、40歳代から60歳代まで、性別関係なく幅広く発症します。また、70歳～80歳になって初発する人、痛みが再発する人もいます。原因は、関節を構成する軟骨や靭帯(じんたい)の成分が老化などによって変性するためといわれます。症状と時期によって「急性期」「慢性期」「回復期」の3段階があり、急性期では安静時でも痛みが強く、肩から上腕まで痛みが広がり、夜間痛も見られます。

無理のない範囲で できるだけ肩を動かす

痛みが強い「急性期」は安静を保つようにします。痛みを取り除く方法として、消炎鎮痛薬の内服、湿布、ヒアルロン酸の関節内注射などが有効です。関節内注射は1～2回で、多くの患者さまに効果が見られます。痛いからといって肩を動かさずにいると、関節が癒着し、拘縮するので、急性期が過ぎたら無理のない範囲で、できるだけ肩を動かすようにしましょう。

当院のリハビリでは、専門の理学療法士がマンツーマンで対応し、患者さまの状態を確認しながら、運動療法を行っています。また日常生活では、意識して肩を動かすことをお勧めします。



五十肩の簡単チェック



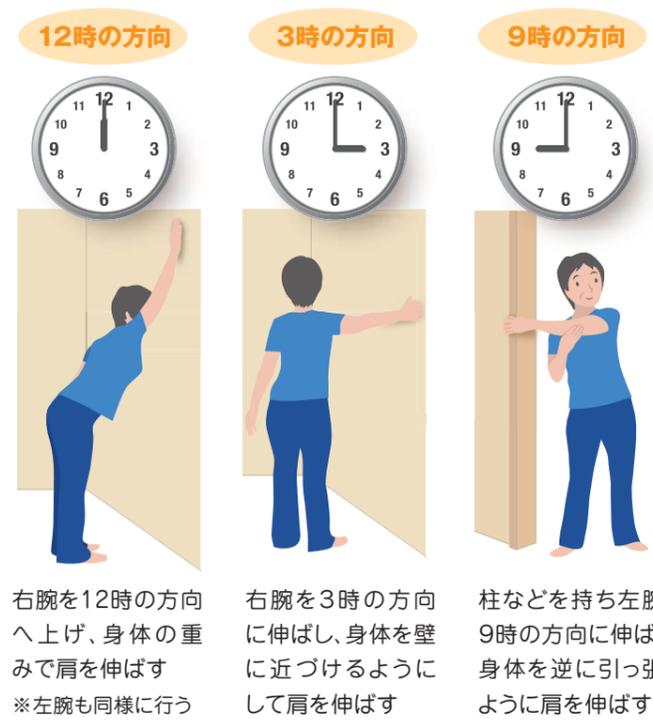
左右の開き方が違っていたり、両腕が十分に広げられない方は、**五十肩の可能性**があります！

五十肩の段階と対策

- ① **急性期** (約2週間) 炎症を抑えて安静にする
- ② **慢性期** (2～4カ月) 肩を温めて少しずつ動かす
- ③ **回復期** (3～6カ月) 肩を温め、積極的に動かす

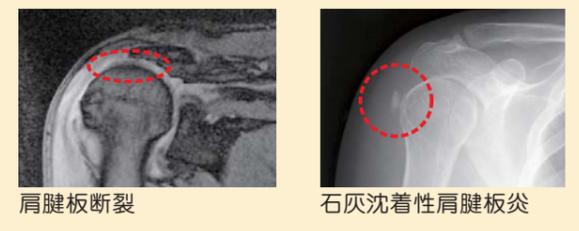
自宅で簡単 五十肩予防のストレッチ

家の壁や柱を使って行う、簡単ストレッチです。時計の針をイメージして、肩と腕を気持ちよく伸ばします。片腕ずつ20～30秒、静止しましょう。



ドクターからのメッセージ MESSAGE FROM DOCTOR

まずは医師の診断を
肩の痛みを訴える患者さまの多くは五十肩ですが、なかには「肩腱板断裂」や「石灰沈着性肩腱板炎」といった病気が見つかるケースもあります。これらはレントゲンやMRIなどの検査をしなければ判別が付きません。「五十肩だから放っておけばいい」と軽く考えず、まずは受診されることをお勧めします。



石原 銀太郎 (整形外科部長)
整形外科専門医、認定リウマチ専門医、認定スポーツ専門医、認定運動器リハビリ専門医など、幅広い知識と経験を持つ。



二次救急指定病院として

●24時間365日体制で救急患者を診る
山口病院は開業時から「24時間365日体制で救急患者を診る」をモットーとし、現在は二次救急指定病院の指定を受けて、年間700台程度の救急搬送患者を受け入れています。その根底には、「患者さんには日曜も祭日もない。だからこそ、1年365日、いつ症状が出ても診る病院が必要である」という、理事長・院長の揺るぎない信念があります。また、二次救急指定病院として機能するには、スタッフの受け入れ体制も非常に重要となります。理事長・院長の信念を受け継ぎ、スタッフ一人ひとりの医療に注ぐ思いがあってこそ、今日まで、救急患者を受け入れることができています。



二次救急指定病院とは……
入院や手術を要する症例に対する医療を提供する病院。山口病院に救急搬送される患者さまの多くは、高齢者の骨折、交通外傷、労災事故、スポーツ外傷などが占めています。



愛知県より救急医療功労賞を受賞

私とやまぐち

山口病院と出会わなければ、今の私は存在しません。

まだ「理学療法士」という言葉もなかった昭和40年代。10代だった私は、見学に山口病院を訪れ、アットホームな雰囲気にならされて「ぜひここで働きたい」と申し入れをしました。3年間、中和医療専門学校へ通いながらの病院勤務は、遊び盛りの年齢だった自分にはハードでしたが、院長(現理事長)が先導役となって、職員みんなでスキーに行ったり、ソフトボールをしたり、楽しい思い出もたくさんつくっていただきました。当時は病院の6階に寮があり、夜間に救急の患者さまが運ばれてくると、飛び起きて補助に回ったものです。「24時間救急体制」の現場を肌で感じながら、医療について日々、学ぶこ

とができました。リハビリの世界では独立する方も多いようですが、院長を始め、良い先輩や同僚に恵まれ、気がつけば半世紀。これからもここで頑張ります。

Profile.....
リハビリ室長 白井秀和
1968年に入職。中和医療専門学校で学びながら病院勤務。2009年にリハビリ室長に就任。今年で勤続46年という大ベテラン。

